

埋文にいがた

No. 63
2008. 7. 15

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

20年度発掘調査遺跡の紹介

北前田遺跡

(上越市大字上中田字北前田472ほか)

遺跡は高田平野西部の関川支流青田川右岸の沖積地^{ちゅうせきち}にあり、畑および水田として利用されている標高19m前後の平坦面に存在しています。北陸新幹線の建設に伴い、4～6月にかけて約2,000㎡を対象に発掘調査を行いました。

検出した遺構は、掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}16棟・溝2条・畝状小溝^{うねじょうこみぞ}(畑作痕^{はたさくあと})23条・井戸3基^{どこう}・土坑多数^{どこう}・ピット多数です。遺物は、比較的多くの土師器^{はじき}や須恵器^{すえき}の破片と鉄製品^{てつす}(刀子)が出土しています。

この遺跡で最も重要な成果は、3～4棟で構成される掘立柱建物群に隣接して、比較的大型の土坑と井戸がセットになって存在していたことであり、これが当時の基本的な生活単位であった可能性が高く、生活単位は4つ確認されています。

また、この生活単位同士が20mくらいの距離をもって存在していることから、当時の土地所有のあり方を反映しているものとも推定されます。遺構から出土した土器は、これから詳しく分析することになりますが、おおむね平安時代初期の9世紀を中心とした時代のものと考えられます。

((株)ノガミ 岡本範之)



生活単位Bの掘立柱建物群と土坑

せいぶ
西部遺跡(05北区南側)
(村上市牛屋字西部1192ほか)

日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、4月1日から5月31日まで発掘調査を実施しました。昨年度からの継続調査で、今年度の調査は村道(平林・福田線)下の約960m²が対象です。

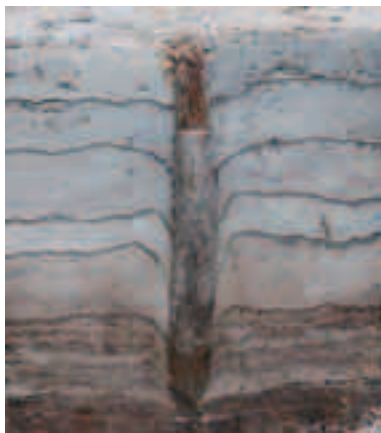
遺跡は荒川河口に近い右岸自然堤防の後背湿地に位置し、8世紀後葉から10世紀前葉の水田跡を検出しました。水田面は2枚(第1・2遺構確認面)確認でき、それぞれの確認面において、基軸になる東西・南北方向の大畦畔たいけいはんや、その区域内を区画する中小の畦畔を検出しました。検出した遺構は大畦畔4条、中畦畔7条、小畦畔73条、溝7条、道路状遺構4か所です。

第1遺構確認面で検出した大畦畔の構築土中から、粗朶木そだぎを検出しました。軟弱なシルト質土壌の地盤改良を行ったのか、大畦畔の築造位置を示すためのものなのか、詳細な性格は不明ですが大畦畔の構築方法の一端が明らかになりました。また、第2遺構面で検出した大畦畔から波板状の凹凸おうとつを検出したことから、大畦畔の一部は道路として利用されていたことが分かりました。なお、昨年度までの調査成果では大畦畔の交差点において土器細片や炭化物が多量に出土しましたが、今年度の調査においてはそのような状況は見られませんでした。

遺物の出土量は少なく、土師器はじきや須恵器すえきがコンテナ2箱、木製品や杭が5箱、石製品その他が1箱でした。

上記の調査成果から、大畦畔による区画は東西約65m、南北約55mという単位で展開することが判明しました。また、今年度検出した東西大畦畔が西部遺跡の水田域の南限である可能性も考えられます。

今後は、今年度の調査成果のまとめに加えて、昨年度までの調査成果を再検討した報告書を刊行するための整理作業を実施します。
(大成エンジニアリング株式会社 村田道博)



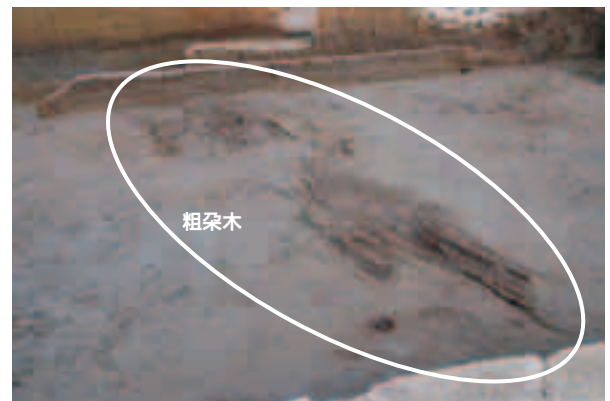
検出した杭と土層断面



調査区近景(西から)



東西大畦畔と道路状遺構(南西から)



粗朶木の検出状況(南東から)

ながわり
長割遺跡

(村上市下相川字長割307ほか)

遺跡は三面川の支流、門前川右岸の自然堤防上にあり、標高約18m（周辺の水田・畑との標高差は2m未満）と比較的低地に立地しています。日本海沿岸東北自動車道の建設に先立ち、昨年度から発掘調査を始め、本年度は2年目となります。上下2面で遺構（縄文時代後期前葉の大規模集落）を確認しており、発掘調査の延面積は10,370㎡（5,185㎡×2面）に及びます。

主な遺構には、平地式？建物、掘立柱建物、石囲炉、地床炉、貯蔵穴、埋甕、土坑墓があります。集落の形態は「環状集落」と予想され、分布範囲（居住域）は径約140mと、県内の縄文時代のムラでは最大級です。

平地式？建物としたものは、竪穴住居のような掘り込みやそれに伴う壁が確認できないもので、石囲炉・地床炉を中心にして円形に柱穴が配置されていることが特徴です（写真1）。柱を立てるために掘られた柱穴は、平地式？建物で直径20cm程ですが、直径が1mを超える大型のものが、調査区の南側で数多く見つかりました。直径約1.6m、深さ約1.5mと特に大きなものもあります。平面形が長方形の掘立柱建物で、最大のものは桁持柱が6本、棟持柱が4本、長軸は約18m、短軸は約5m、床面積は約90㎡（約28坪）です（写真2）。柱材は残っていませんが、土層断面や柱穴底面の柱が置いてあった跡（「アタリ」痕跡）から、直径50～55cm程の木が使われていたと見られます（写真3）。この掘立柱建物の構造については検討中ですが、柱穴の深さの3～4倍が地上に出ていたと考えられていることから、屋根の高さは4.5～6m（深さ1.5m×3～4倍）です。建物に伴う炉が確認されていないことから「高床式建物」と考えています。縄文時代の高床式建物としては県内では最大です。日常的に居住する「家」ではなく、特別な場合に使用する建物と考えています。

調査が進み、ムラの様子が分かってきました。環状集落で、高床式建物群が南側、貯蔵穴群が北側に集中します。見つかった遺物はコンテナで1,000箱を超え、当時の生活の様子を考えるための情報が数多く得られた遺跡です。8月上旬には、今年度2回目の現地説明会を予定しています。是非、現地にお越しください。

（滝沢規朗）



写真1 平地式？建物

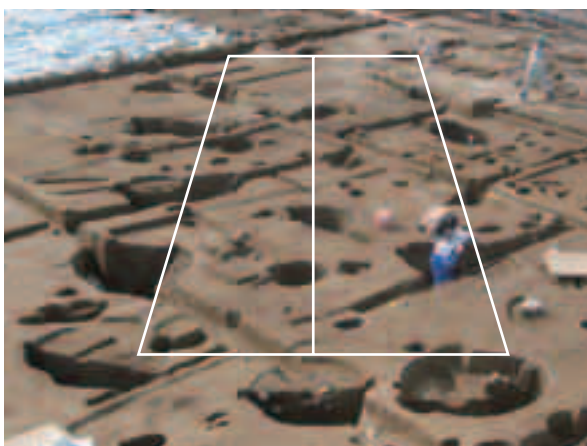


写真2 大型掘立柱建物



写真3 大型掘立柱建物の柱穴

あらまちなみしんでん

荒町南新田遺跡

(上越市大字荒町字南新田286-1ほか)

荒町南新田遺跡は青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高17.5～18mを測ります。北陸新幹線の建設に伴い、4月から11,850㎡を対象に発掘調査を行っています。調査は11月まで行う予定です。

現時点で竪穴住居4軒、平地式住居1軒、掘立柱建物25棟、井戸20基等を検出し、その数は今後さらに増加するものと考えられます。遺構の年代については出土遺物などから、竪穴住居及び平地式住居は古墳時代、掘立柱建物及び井戸は中世のものが大部分と推定されます。

遺物は古墳時代の土師器・須恵器や金属製の耳環、ガラス小玉、さらには中世の珠洲焼・青磁や古銭等が出土しています。本遺跡に隣接し、古墳時代から中世にかけて断続的に集落が営まれていたものと推定され、調査の成果を通じてこの地域の歴史が明らかになるものと考えています。(株)ノガミ 金内 元)



平地式住居



掘立柱建物



たぶせやくしどう ごりんとう

田伏薬師堂の五輪塔

山岸遺跡(系魚川市大字田伏字山キシ)の北東の丘陵に「田伏薬師堂」というお堂があり、2基の五輪塔が建っています(写真:もう1基は手前五輪塔にかくれています)。

五輪塔とは、真言密教で世界を構成する地・水・火・風・空の五大元素をそれぞれ方形・球形・三角形・半球形・宝珠形に石でかたどり、順に積み上げた石塔の一種で、供養塔や墓標として造立されたものです。

薬師堂の2基の五輪塔は、ほぼ同じ造りをしています。それぞれ地輪に「アン」、水輪に「バン」、火輪に「ラン」という種子(仏・菩薩を標示する梵字)が大きく薬研彫りされ、地輪は幅に対してわずかに低く、水輪は球体を少し押しつぶした形(中程が最大径)をしています。火輪は屋たるみを緩やかな曲線にして高く、軒口は薄く垂直に仕上げ、中央部分からやや厚みを増し、両端で緩やかに反り上げています。空輪と風輪は一石で造り出し、風化による摩滅が激しいものの、空輪は曲線的な宝珠形を示しています。



これらの形態的な特徴から、薬師堂の五輪塔は南北朝時代に造立されたものと推定され、鎌倉から室町時代にかけての集落遺跡が見つかった山岸遺跡との関連が注目されます。(国際文化財株式会社 鳥越道臣)

だいぶ
大武遺跡

整理報告遺跡

(長岡市島崎字大武)

一般国道116号和島^{わしま}バイパス建設に伴い、平成6～9(1994～97)年にわたって発掘調査しました。遺跡は、江戸・中世(14～16世紀)、古代(9～10世紀)、古墳(5～6世紀)、弥生中期、縄文晩期、縄文前期と長期にわたります。中世については、すでに平成10年度に報告書を刊行しています。

今年度は、古代以前の木製品の実測及び土器の接合・復元といった基礎整理作業を行います。古代以前の木製品は3,000点以上に上り、実測点数はおおよそ1,000点を計画しています。古墳時代の木製品には、大木を剥ぎ抜いた井戸側、鍬、斧柄、梯子、杵、櫂等があります。弥生時代では、長さ2.2mもある白木の弓が出土しています。縄文時代晩期では木製赤漆塗り腕輪、用途不明の脚付盤、組合せ斧柄等があります。このうち、用途不明の脚付盤は全国的にも類例がなく珍しいものです。また、組合せ斧柄は全ての部品が揃っており、斧の着柄方法が明確となりました。これら木製品は、重要物件はすでに保存処理済で、残り先実測や写真撮影が終了すると順次保存処理する予定です。

(高橋 保)



組合せ斧柄



脚付盤

埋文インフォメーション

第15回遺跡発掘調査報告会開催のお知らせ

第15回遺跡発掘調査報告会を下記により開催いたします。今回は当事業団が平成18・19年度に発掘調査した遺跡のうち、5遺跡についてスライドを使った調査報告を行います。また、この5遺跡を含む18遺跡について出土品及び写真パネルの展示を行います。なお、当日は村上市教育委員会の発掘調査報告及び出土品展示もあります。

事前の申し込みは不要です。皆様のご来場をお待ちしております。

期日 平成20年7月20日(日)

会場 村上市民ふれあいセンター

(JR村上駅から車で約6分、駐車場500台)

日程 9:30～ 開場

10:30～12:00 遺跡発掘調査成果報告(村上市教育委員会)

12:00～13:15 展示解説会

13:15～15:50 遺跡発掘調査報告

(谷地、山元、西部(南側)、西部(北側)、大館跡)

* 詳細は当事業団ホームページをご覧ください。



平成20年度

発掘調査 遺跡



平成20年度は下表のとおり26遺跡で発掘調査を、また3遺跡の整理作業を行っています。「埋文にいがた」ではこれらの遺跡を順次取り上げ、紹介していきます。

番号	遺跡名	所在地	調査期間	時代	番号	遺跡名	所在地	調査期間	時代
1	しんぼたかだ 下新保高田	村上市下新保字高田1960-2ほか	4~10月	古墳・室町	14	しもわり 下割	上越市大字米岡字中割ほか	4~8月	古墳・古代・中世
2	まき 堂の前	村上市下新保字高田2351-2ほか	4~8月	弥生・室町	15	いわ 若ノ原	上越市大字向橋字岩ノ原155-105ほか	9月	平安
3	かつらぎ 桂木田	村上市十川字桂木94-3ほか	4~8月	弥生	16	なかだほら 中田原	上越市大字中田原字中田原82-67ほか	7・8月	平安
4	ふるさ 古渡路	村上市古渡路字海老屋敷・大場沢字アケほか	4~12月	中世	17	のあび 野畔	上越市大字上中田字野畔1085-5ほか	7月	平安
5	ながわり 長割	村上市下相川字長割307ほか	4~11月	縄文後期	18	きたまただ 北新田	上越市大字上中田字北新田472ほか	4~6月	平安
6	やまの 田屋遺	村上市九日市字堂田1459ほか	4~6月	中世	19	きんしん 北新田	上越市大字荒町字北新田313-1ほか	8月	古墳・古代・中世
7	せいぶ 西部(05北地区南側)	村上市牛屋字西部1192ほか	4・5月	古代	20	あまみ 荒町南新田	上越市大字荒町字南新田286-1ほか	4~11月	古墳・古代・中世
8	むらま 村前東A	阿賀野市大字飯森杉字村前190ほか	8~11月	古代・中世	21	すま 諏訪前	上越市寺町字諏訪前	7月	古代
9	がら 柄目木	阿賀野市大字小里字柄目木75-2ほか	4~7月	古代	22	やま 山岸	糸魚川市大字田伏字山キシほか	4~12月	平安・鎌倉
10	やま 山口	阿賀野市山口字城ヶ窪3079ほか	4~7月	弥生・古代・室町	23	ろくた 六反田南	糸魚川市大字大和川字六反田ほか	4~11月	縄文・古墳・古代
11	き 手吉作	柏崎市大字剣野町字古作288-3ほか	4・5月	古代・中世	24	みな 南押上	糸魚川市南押上2丁目ほか	4~11月	古墳・平安
12	け 剣野沢	柏崎市大字剣野町字剣野沢34ほか	8~11月	縄文・古代・中世	25	ひめ 姫御前	糸魚川市東寺町2~3丁目ほか	4~9月	古墳
13	こ 香積寺沢	柏崎市大字剣野町字香積寺沢ほか	6・7月	中世	26	たけ 竹花	糸魚川市寺町2-458ほか	5~8月	古墳・室町

日本海沿岸東北自動車道 国道バイパス 北陸新幹線 糸魚川東バイパスならびに北陸新幹線

平成20年度 整理作業遺跡

遺跡名	所在地	関連事業名	調査年度	時代
だいぶ 大武	長岡市島崎字大武	国道 116 号和島バイパス	平成6年~9年	縄文~中世
うぼが 姥ヶ入南	長岡市島崎字姥ヶ入・立野	国道 116 号和島バイパス	平成8年	古墳・平安
うぼが 姥ヶ入製鉄	長岡市島崎字姥ヶ入	国道 116 号和島バイパス	平成8年・11年	縄文・平安
たて 立野大谷	長岡市島崎字立野	国道 116 号和島バイパス	平成10年	平安・中世

埋文インフォメーション

埋蔵文化財センター展示品入れ替えのお知らせ

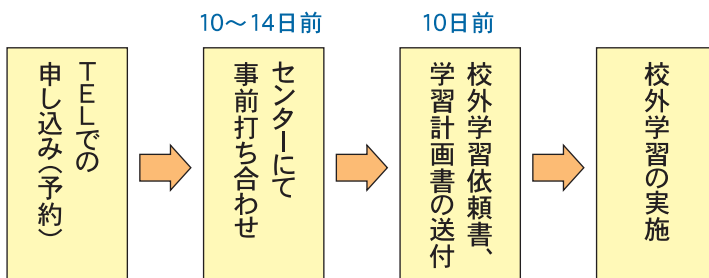
「平成18年度発掘調査の出土品」を、下記により館内に展示しています。この機会に、県内各地から出土した貴重な資料をぜひご覧下さい。

期間	遺跡名	所在市町村	時代
4月	深谷遺跡	糸魚川市	縄文早期・前期
	横マクリ遺跡	糸魚川市	古墳前期
	姫御前遺跡	糸魚川市	古墳前期・室町
	岩ノ原遺跡	上越市	平安
	窪田遺跡	村上市	奈良・平安・鎌倉・室町・江戸
	新潟町遺跡	新潟市	江戸
10月 (予定)	六反田南遺跡	糸魚川市	古墳前期
	前波南遺跡	糸魚川市	古墳中期・奈良
	延命寺遺跡	上越市	飛鳥・奈良
	西部遺跡(04)	村上市	平安
	山岸遺跡	糸魚川市	平安・鎌倉
	田屋道遺跡	村上市	鎌倉・江戸



校外学習(センター見学、体験学習)の申し込みについて

社会科や総合的な学習の時間の一環として、展示品や遺物整理の見学、体験学習などができます。体験学習として、煮炊き体験・石器使用体験・火おこし体験まがたま・勾玉作り体験・土器文様付け体験などを用意しています。当センターでの校外学習の申し込みは次のとおりです。



勾玉作り体験

* 体験活動はいくつかの組み合わせが可能です。

* 施設の都合上、40名を超える場合は2グループに分かれて活動してもらう場合があります。

なお、事業団職員が遺跡から出土した土器や石器などの遺物を持って学校に向向き、授業のお手伝いをする「出前授業」も行っています。詳しくは下記担当までご連絡下さい。

【担当】(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 調査課普及班 樋口重正

県内の遺跡・遺物61

てんじんやまひめづかきょうづか
天神山姫塚経塚出土品(昭和37年県指定)
 (糸魚川市大字青海4652)

天神山姫塚経塚出土品は、大正8(1919)年9月15日、住宅等の造成に伴って青海神社裏手の天神山姫塚から発見され、青海神社に奉納されたもので、陶製経筒(珠洲焼)1口、銅製草花双雀文鏡2面(内1面残欠)、銅製和鏡周縁1個からなります。経は腐敗してしまっただけで確認できませんでしたが、経筒の中には木炭が詰まり、銅製草花双雀文鏡と銅製和鏡周縁が蓋のようになって入っていました。

鏡はもともと3面あり、どれも直径10cm前後、厚さ0.7cm前後で、白銅の日本製でしたが、1面は周縁部しか残っていません。また、腐敗が著しいためにこれらの鏡の取り扱いは慎重に行われ、展示や写真撮影は行われていません。確認できる鏡の紋様には、ススキと菊が描かれ、それらの枝先にとまる蝶やたわむれる小鳥なども描かれています。この繊細な紋様は平安時代のもので、貴族にたいへん好まれたようです。そのため、地方でこのような貴重な鏡を入手していたこと自体、たいへん興味深いものがあります。

陶製経筒は、高さ25cm、口径20cm、底径18cm、厚さ1cmで、この筒の内外面には轆轤を使って整形した形跡があります。製造時にヒノキの板の上に粗砂をまいて置いたと見られ、底面には板目や粗砂の付着が認められます。刻銘から仁安2(1167)年に僧定招(青海神社の神宮寺である清願寺の僧か)がこの経筒を埋納したことがうかがえます。定招の左側には粟田重包の名があります。武士または地域の有力者と思われるものの、どのような人物であったのか分かっていません。いずれにしてもこの人物が経筒埋納の施主だった可能性は高いと考えられます。

経を埋めて保存する風習は、末法思想がもとになっているといわれています。釈迦入滅後、教(教説)・行(実践)・証(悟り)の全てが備わった正法、証がなくなった像法、さらに行もなくなる末法を経て仏法が衰退していくという史観です。永承7(1052)年には末法の時代になるという説が10世紀頃から流行し、天災・疫病・戦乱が起こるのも末法の時代になったためと信じられるようになりました。このような風潮の中、信仰の厚い有力者や僧が経を埋納し、仏教再興の弥勒菩薩が世に出るときに備えたようです。

現在、これらの出土品は青海神社が所有していますが、糸魚川市が管理しています。8月31日(日)まで糸魚川市の文化財展(糸魚川歴史民俗資料館)にて一般公開されています。

(資料提供:糸魚川市教育委員会 参考文献:『青海-その生活と発展-』)



陶製経筒

告奉正私
 願主僧定招(花押)
 粟田重包
 仁安貳年七月十四日申時了

陶製経筒刻銘

埋文にいがたNo 63

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒956-0845 新潟市秋葉区金津
 93番地1
 TEL (0250) 25 - 3981
 FAX (0250) 25 - 3986
 e-mail : niigata@maibun.net
 URL : http://www.maibun.net

印刷 阿部印刷株式会社